

Ⅲ コロナウィルス感染防止 密閉・密集・密接を避け、次の防止策を設定します

- 1 必要最低人数(選手,指導者,保護者の総数30名以内)で参加する
感染拡大地域への2週以内の渡航者、乳幼児や年配者の帯同はご遠慮ください
- 2 来場の選手・指導者・保護者全員を検温し、健康状況表(別紙様式)に記入して受付に提出する
- 3 施設利用規定で、チーム対戦中以外は児童管理の**2名の保護者以外は館外(車内等)**で待機する
- 4 参加者は、近距離で発声や大声での会話を、試合中だけでなく応援時や観戦中もしない
- 5 試合前・終了後の選手間や指導者・審判員間の握手はしない(コート中央での挨拶に全てを代える)
- 6 試合終了後の相手チームやテーブルオフィシャルへの挨拶はしない
- 7 試合中か試合前練習の選手以外は**(ベンチも全員)**、入館者全員(大人も)が常に**マスク**を着用する
※飲食が済んだり、試合直後の選手は興奮がおさまったら忘れず着用する
- 8 **消毒液と石鹸**をチームで持参し、こまめな**消毒**と試合前後等の**手洗い・うがい**を励行する
- 9 出場選手は**クォーターごとにベンチで手を消毒**して、エントリーチェックを受ける(途中交替時も)
- 10 ベンチは間隔を空けて**15脚設置**します。試合終了時に**前試合チームが消毒拭き**して交代する
ベンチへの入場は、スタッフ・選手を含め**19名**までとする
- 11 主審はクォーターごとに**試合球を消毒拭き**して使用する
- 12 テーブルオフィシャルの机椅子、機器や表示用具は担当終了チームが**消毒拭き**して交代する
- 13 客席や控室での密接密集を避け、十分に**間隔を空け**着席し、**消毒拭き**して交代する
客席や控室はチームごとに指定します。保護者の応援は2階から行い、充分間隔を空けて着席する
- 14 館内は終日の換気に留意する
- 15 少人数での選手輸送に努めましょう(駐車は7台以内としますが送迎時は制限しない)
- 16 密集回避のため、湯茶コーナーは飲み物だけ設置し保護者は不在とします
- 17 開会式(交歓会)や閉会式は密集回避のため実施しない
事前に、大会要項、大会規定をよく読みチーム内での徹底をお願いします
ブロックごとに優秀校(2日間全勝校)は帰校時に賞状と楯を謹呈します

Ⅳ 熱中症対策 適切な水分補給と換気に留意し、健康状況の把握に努めましょう

熱中症とは…暑さや湿度の高い環境の中で起こる全身の傷害。症状によって熱けいれん・熱疲労・熱射病の3つに分けられます(熱失神を加えて4つに分けることもあります)

低 ○筋肉のけいれんや痛みがある場合 <熱けいれん>

↓ 水分(0.9%食塩水あるいはスポーツドリンクなど)を補給しながら四肢を軽くマッサージする

重症度 ○めまい、頭痛、吐き気などがあり発汗が見られる場合<熱疲労>

活動を中止させ、水分(0.9%食塩水、あるいはスポーツドリンクなど)を補給する

保護者に連絡し、迎えが来るまで様子を観察する

足を高くして寝かせ、汗を拭き、乾いた衣服に着替えさせる

↓ ○意識障害や全身けいれん、高体温が見られる場合<熱射病>

高 救急車を要請し、医療機関に搬送する

一刻も早く体を冷やし、救急車の到着を待つ

《 基本となる対応 》

意識がはっきりしている場合

- ・涼しいところで衣服を緩め、吐き気や嘔吐がなければ、水分・塩分を補給し安静にする
- ・本人が希望すれば冷罨法を実施する
- ・体位は本人が楽な姿勢が良いが、顔面蒼白などの脳貧血症状が見られる場合は足を高くして休養させると良い

意識がはっきりしない場合 (救急車が来るまでの対応)

- ・涼しいところへ移送する
- ・頸部(首)、わきの下、足の付け根などの太い血管が通るところを冷やす
- ・皮膚の温度が高ければ、衣類を脱がせ、霧吹きで全体に水をかけ、うちわや扇風機であおぐ
- ・心肺停止状態であれば、AED、心肺蘇生を実施する

疲
打)

